

稲作だより第1号

令和 4年 7月 22日発行

福岡市農業指導センター農産班

1. 気象について

今年は5月・6月と雨が少なく、地域によっては田植が予定通り行えなかったところがあるかと思えます。また、梅雨明けは早く発表され、空梅雨で用水不足の地域の発生が懸念されておりましたが、現在ほとんど解消されているかと思われまます。今後の雨の動向にもよりますが、水管理には気を付けていただくようお願い致します。

7月21日 現在	温度(°C)			日照時間(h)			降水量(mm)		
	平年	今年	平年差	平年	今年	平年比(%)	平年	今年	平年比(%)
5月下旬	20.1	22.1	2.0	71.9	92.1	128.1	34.6	7.0	20.2
6月上旬	21.3	21.3	0.0	54.4	80.1	147.2	37.4	45.5	121.7
6月中旬	22.6	23.4	0.8	48.6	46.5	95.7	82.7	28.5	34.5
6月下旬	23.9	28.3	4.4	33.7	51.6	153.1	123.2	37.5	30.4
7月上旬	25.6	28.4	2.8	41.6	63.3	152.2	148.7	7.0	4.7
7月中旬	26.9	27.7	0.8	56.1	37.7	67.2	92.4	73.0	79.0

平年値は、過去10年間の期間で、気温は平均値、降水量及び日照時間は積算値を表しています。

2. 病害虫の発生状況 (7月15日調査)

「いもち病」はほとんど発生していません。コブノメイガは殆ど見受けられません。
「トビイロウンカ」は飛来はしてきているようですが、管内圃場では確認できませんでした。念のため今後の動向に注意しましょう！！
温度が高い時は「紋枯病」発生の懸念があります。夕方入水し温度を下げましょう。

【病気】

1) いもち病

現時点で、圃場内ではほとんど見受けられませんが、今後雨が続く日が多く気温が上がりきらない日が続いた場合は風通し等の圃場の条件次第では発生する可能性があるため注意して下さい。

また、稲を傷める事で発生するいもち病(日照りイモチ)もありますので、適正な水管理を心がけましょう。強すぎる中干しは厳禁です！

2) 紋枯病

紋枯病は、圃場間で伝染する事はほとんどありません。発生する圃場は毎年のように発生しますので注意しましょう。特に、畦が無くコンクリート壁に囲まれているような田んぼでは、夜になってもなかなか温度が下がらないため、発生しやすい傾向にあります。気温が高くなる時期には夕方に入水し、田んぼの温度を下げるようにこころがけましょう。

3) 稲こうじ病(豊年病)

7~8年前の多発生から一定期間が経過したため、終息傾向にあるのではないかと思われまます。中干し後~出穂前にかけて雨天が続き気温が上がらない場合発生する可能性があります。出穂後に症状が現れる病気です。症状が現れた後で農薬を散布しても効果は見込めませんので、天候を見て心配であれば『モンガリット粒剤』や『ノンブラスフロアブル』等を出穂前に散布し、予防しましょう。

【害虫】

(1) セジロウンカ

若干飛来していますが、管内では見受けられません。もし見つけても防除の必要はありません。

(2) トビイロウンカ

今年は6月下旬と7月上旬に飛来が確認されております。佐賀県では7月中旬の戻り梅雨による飛来も確認されているようです。今回の調査において管内の圃場では確認出来ませんでしたが、念のため今後の動向には細心の注意を払っておいてください。また、箱粒剤の「防人箱粒剤」「スクラム箱粒剤」を使用されていない方につきましては、特に注意を払っていただくようお願い致します。

トビイロウンカの特徴として『褐色で脂ぎったような色の小さいセミ』のような虫となっていますので、ご自分の圃場にいないか十分に観察して下さい。今後も動向を注視して稲作だよりでもお知らせしていきたいと思っておりますのでご参照ください。

(3) コブノメイガ

現時点で圃場内では殆ど見受けられませんので、今のところ特別な防除は必要ありません。

(4) 斑点米カメムシ

出穂期に問題となる害虫です。畦雑草の穂を吸って増殖し、稲の出穂後、水田に侵入します。

①出穂前10日間～出穂後20日間は草刈りをしない。もしくは

②出穂前3週間で畦草を刈り、出穂期（雑草の穂が着く前）にもう一度刈る等の畦草管理で対応しましょう。

薬剤散布のタイミングは、粒剤であれば【出穂期～穂揃期】

粉剤・水和剤であれば【出穂期の5～7日後】が基本となります

3. 今後の管理の注意点

(1) 水管理 茎数確保のできている圃場が多いので、中干しを行いましょ

水稻の生育ステージ	無効分けつ期	幼穂形成期	出穂期	登熟期	成熟期
水管理	中干し	間断灌水	浅水湛水	間断灌水	落水

<中干し>

- ・ 中干し開始時期の目安は、1株茎数が約18～20本程度になった頃です。
- ・ 中干しは、田んぼに軽くヒビが入り、足跡が付く程度が適当です。
- ・ 水が不足する場合は無理に行わず、出穂期前まで強めの間断灌水を繰り返してください。

<浅水湛水>

- ・ 出穂期前後は、稲の一生の中で、最も水が必要な時期です。水を切らさないように！
- ・ 浅水管理で受光体制を整える事は、倒伏防止にも役立ちます
- ・ 水が不足する場合、出穂期前後は土が黒く湿る状態を維持してください。

(2) 出穂期予想と倒伏対策

品種	田植日	出穂期予想
夢つくし	5月21日	7月30日頃
	5月28日	8月 2日頃
	6月 4日	8月 5日頃
元気つくし	5月21日	8月 4日頃
	5月28日	8月 7日頃
	6月 4日	8月10日頃
	6月11日	8月14日頃
	6月18日	8月17日頃
ヒノヒカリ	6月 4日	8月20日頃
	6月11日	8月23日頃
	6月18日	8月26日頃

尿硫燐 48 や赤とんぼの里、ベスト 444 を使われる場合には出穂期予想の 20 日前頃に、油粕が使われる場合には出穂期予想の 25～27 日前頃に追肥を行いましょう。

どの品種も元肥に一発型肥料を使用している圃場には、基本的に追肥は行わなくても良いのですが、葉色が薄い（畦のイネ科雑草と同じ色）場合には追肥を検討しましょう。

各品種の施肥量に関しては、稲作ごよみでご確認ください。

4. その他

○間断灌水とは

間断灌水とは、水を溜めて自然に抜けるまで待ち更に少し入水せずに置いておく事です。これを行う事で、中干しで出来たヒビから根に酸素を送り込み、根の活性維持を図ります。

○台風対策

出穂後に台風が接近してきたら、強風による脱水を防ぐため、可能な限り深水管理を行いましょ

う。稲刈り間際になって台風が接近してきた場合には、田んぼの熟れ具合や土の状態を確認し稲刈り出来るようであれば稲刈りを行いましょ

○農作業安全

毎年、台風や大雨の際に『用水路に流され…』というニュースを耳にします。台風や大雨の対策は極力前日までに行い、水が引くまでは用水路等の危ない場所には近づかないようにしましょ

う!!
稲は 1 日冠水しても大丈夫な作物です。台風や大雨が過ぎ去った後で被害状況を確認しましょ

う。
近年、この時期に熱中症のニュースを見聞きされてあると思います。農作業は可能な限り、朝夕の比較的涼しい時間帯に行いましょ

う。
また、次のような症状が出てきたらすぐに涼しい所に移動し水分を補給しましょ

- ①めまいや立ちくらみ、顔のほてり
- ②筋肉のけいれん（草刈り中に腕がピクピクなりだした等は要注意です!）
- ③体のだるさや吐き気

農作業を行う際には、すぐに水分・塩分を取れるよう準備した上で行いましょう。

喉の渇きを感じない場合もありますので、時間を決め定期的に水分並びに塩分を補給するよう心掛けましょう。

○中後期除草剤

天候の関係で、また水が足りなくて除草剤を散布出来なかった方がおられるのではないかと考えられます。雑草が残っている場合には、下記の薬剤でご対応下さい。

<u>クリンチャーバスME液剤</u>	ヒエ・広葉	収穫 50 日前まで	<u>落水又は極浅水</u> での散布
<u>バサグラン粒剤</u>	広葉のみ	収穫 60 日前まで	<u>落水又は極浅水</u> での散布

内容に関する問い合わせは、最寄りの JA または普及指導センターへ

今後の稲作だより等稲作情報について

今後の稲作だよりにつきまして、皆様のお手元に届くまでに時間を要する可能性がありますので、下記の QR コードよりすぐに関連できるようにいたしました。お急ぎの方につきましてはこちらよりアクセスしていただきましたらすぐに関連できますのでこちらをご活用ください。



↑ 稲作だよりトップ

(過去の稲作だよりを閲覧したい時はこちらから)



↑ 稲作だより最新号

(最新版を閲覧したい方はこちらから)

※今後の発行スケジュールですが「稲作だより 2号」をお盆前に、「稲作だより 3号」を8月末から9月初頭、「稲作だより 4号」を年末にと考えておりますので、ご参考下さい。

※また、今後稲作情報の速報を「JA 福岡市東部 営農情報」の公式 LINE で発信していきたいと考えております。この機会に「JA 福岡市東部 営農情報」の LINE 登録も併せてお願い致します。

公式 LINE 登録用 QR コード

